皆 野 町
地震ハザードマップ

目次

町長のあいさつ／地震ハザードマップとは ・・・・・・・・・・・・・・・・P1
地震発生のしくみ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
地震発生!その時どうする?・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
わが家の防災対策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4
家庭でもう一度安全点検をしましょう ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
家具の耐震改修をしましょう ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
自主防災組織の役割と活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P7
災害時要援護者を守る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8
土砂災害に対する心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P9

保存版

町長のあいさつ

皆野町は、万一の災害の発生に備え、本年度「皆野町地域防災計画」の改定や「自主防災組織の育成と活動の充実」など、官民一体となっての防災体制を整えております。被害を最小限にとどめるためには、町民一人一人が「自分のことは自分で守る」、そして地域の力を集結して「自らの地域は自ら守る」という心構えが大切であり、日頃から様々な事態を想定し、避難場所や避難経路、土砂災害危険箇所等を確かめ、「いざ」というときの対応に備えておくことが必要です。

そこで、「地震ハザードマップ」として、「深谷断層による地震」と「全国どこでも起こりうる直下の地震」として皆野町直下で発生する地震を想定した、【地盤の揺れやすさ】【建物の危険度】を示した２種類の地図を作成しました。このマップを常に身近な場所に置いていただき、家庭や職場、地域などでの防災活動や防災意識の向上にご活用していただければ幸いです。

今後も、住民が安全に安心して暮らせるよう、防災対策の推進に積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成21年2月

皆野町長　石 木 戸　道 也

地震ハザードマップとは

地震ハザードマップとは、地震に関する被害とその程度を予測した地図のことです。

この地図は、過去の震災にて住宅等の倒壊や家具の転倒による犠牲者が多い（阪神・淡路大震災では8割を占める）ことから、「住宅等の耐震化が重要である」ことについて、町民の皆様に注意を喚起し、防災意識の高揚、防災対策を図っていただくことを目的としています。

そのために、発生の恐れのある地震の概要と災害時の注意事項、皆野町において被害をもたらす恐れがある地震による地盤の揺れやすさ、建物の倒壊の危険度に関する情報を皆野町地震ハザードマップに掲載しています。

また、皆野町は面積の約7割を山林が占め、急傾斜地も多く、崩壊、地すべり、土石流等の危険箇所が多数あり、急傾斜地に近接した住宅もあります。そのため、土石流危険渓流、急傾斜崩壊危険箇所、地すべり危険箇所も合わせて、マップに掲載しています。

自宅や学校・職場などにおける地震対策や地震発生時の行動などをご家族や地域の皆様と話し合う際に活用してください。

想定した地震について

埼玉県が平成19年度に行った「埼玉県地震被害想定調査」における５つの想定地震（東京湾北部、茨城県南部、立川断層、深谷断層、綾瀬川断層）のうち、皆野町への影響が最も大きい地震として深谷断層による地震（マグニチュード7.5）と「全国どこでも起こりうる直下の地震」として皆野町直下で発生する地震（マグニチュード6.9）を想定しました。

地盤の揺れやすさマップとは

地盤の状況とそこで起こりうる地震（想定地震）の両面から、地盤の揺れやすさを「震度（揺れ）」として、想定地震ごとに地盤の揺れの強さを50m単位のメッシュ（網目）でランク分けしたものです。

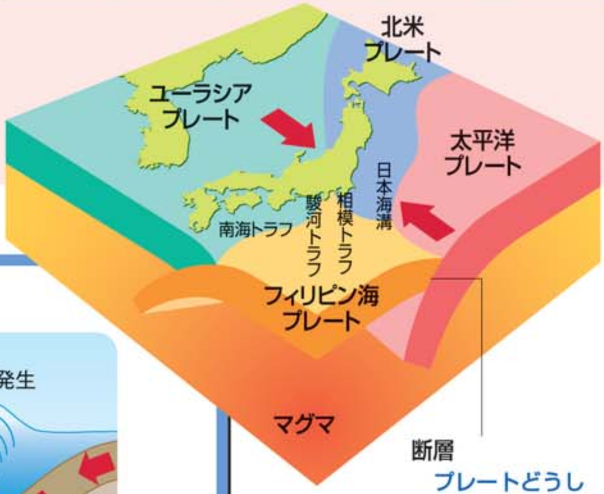
建物の危険度マップとは

地震による揺れによって発生する建物被害の割合を表したものです。

「地盤の揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合の、地区単位ごとに建物が全壊する割合を「危険度」として50m単位のメッシュでランク分けしたものです。

日本列島の周辺には4つのプレート（板状の堅い地殻）があり、年に数センチの速度で一定の方向に動いています。プレートの境目でのプレートどうしの運動が地震を引き起こす原因です。日本では主に2種類の地震が起こっています。

日本周辺のプレートの状況

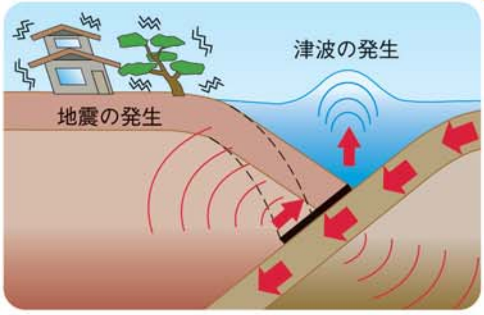


断層

プレートどうしが接触しているところ（二つの面の境界）を断層といいます。

■■■海洋型地震■■■

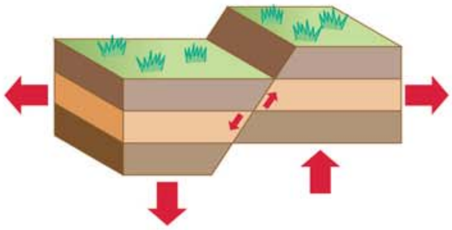
海洋側のプレートの潜り込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、境界にひずみがたまり、限界に達すると元に戻ろうとしてはね上がり、地震が発生します。



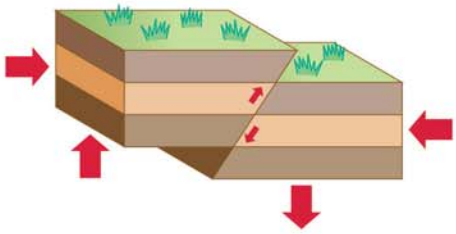
■■■活断層型地震■■■

陸地の地殻もプレートの運動によりいたるところに「ずれ」が生じています。これらの「ずれ」はいつかずれ動く可能性があり、「活断層」と言われています。この活断層のずれ動きが地震となります。

【正断層】



【逆断層】



●マグニチュードとは？

マグニチュード（以下Mと表記）は、地震の規模を表す単位です。

関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

●震度とは？

震度は地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけでなく、震源からその地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

●マグニチュードと震度の関係

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさとの関係に例えられます。同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで、机の上の明るさは異なります。このように、マグニチュードが同じ地震であっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。また、地盤の質の違いによっても、震度の大きさは左右されます。

地震発生！その時どうする？

大きな地震が発生した時、誰でもあわててしまいます。しかし、むやみに逃げまわると、かえって危険が大きくなります。わが身や家族を守るため、いざというときに冷静に状況を判断して行動しましょう。

路上や街中にいた場合

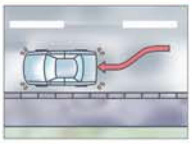
ブロック塀や自動販売機の転倒、看板や割れたガラスの落下に注意しましょう。
ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手で頭を守り、近くの公園や広い場所に避難しましょう。

人が大勢いる施設にいた場合

係員の指示に従い、落ちついて行動しましょう。
また、あわてて出口に走り出さないようにしましょう。

自動車を運転中の場合

ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促し、緩やかに速度を落としましょう。
大きな揺れを感じたら、あわてて急ブレーキをかけずに道路の左側に停止してください。



鉄道・バスに乗っていた場合

つり革、手すりなどにしっかりつかまりましょう。
駅係員や乗務員の指示があれば、従いましょう。

地下街にいた場合

地下街は比較的安全な場所なので、あわてずに係員等の誘導に従って行動しましょう。
係員等がいなければ壁伝いに歩いて、最も近い出口から地上に出るようにしましょう。

負傷者などがでた場合

みんなで協力し合って救出活動・応急救護を行ないましょう。
お年寄りや身体の不自由な人、けが人などに声をかけ、助け合いましょう。

建物の中にいた場合

❶ まずは身の安全を確保

立っていられないような大きな揺れを感じたら、まず丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠します。座布団などが身近にあれば、頭を保護しましょう。

❷ すばやく火の始末

動けるようであれば、すばやくガス器具やストーブなどの火を消しましょう。ガスは元栓を締め、電気器具はプラグを抜きましょう。

❸ 脱出口の確保

揺れで、ドア枠などが変形し、開かなくなってしまうことがあります。玄関や部屋のドア、窓などを開け、いつでも逃げられるようにしておきましょう。

❹ あわてて外に飛び出さない

外では、ガラスや瓦、看板などが落ちてくることがあります。大地震でも大きな揺れは1分程度です。あわてず状況を判断しましょう。

❺ ガラスの破片に注意

室内に、ガラスの破片や危険物が散乱しているときには、スリッパなどをはいて行動しましょう。

❻ エレベーターから降りる

ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階で降りましょう。
停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け、非常用電話で救助を求めましょう。

❼ 正しい情報の収集

デマやうわさに惑わされることなく、ラジオやテレビ報道などで正しい情報を収集しましょう。防災行政無線や災害情報に注意を払ってください。

❽ 冷静に避難

揺れが収まっても、避難の指示などがあったら、速やかに避難しましょう。避難の指示がなくても、延焼や建物倒壊の危険性を感じた時には、冷静に判断して避難しましょう。

緊急地震速報

地震の際は、P波と呼ばれる小さな揺れの後、S波と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえ、地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れのS波が来る数秒から数十秒前に発表するものです。震度4以上の揺れがあると予測された地域に気象庁が発表します。

この緊急地震速報は、震源の近くでは大きな揺れに間に合わないこともあります。予測震度でプラスマイナス1程度の誤差もあります。わずかな時間を活かし、地震の被害を減らすことができるものとして開始されました。

家族防災会議を開きましょう

いざという時に家族があわてず行動できるよう、家族防災会議を開いて次のようなことを話し合い、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

- 避難等で家族が離れ離れになった時の連絡方法
- 避難場所と避難経路
- 家の中で一番安全な場所の確認
- 非常持ち出し品の準備と持ち出し
- 災害時要援護者の支援

※避難場所や避難経路は下見をしておくと、いざという時にあわてなくてすみます。
※別添シールを活用してください。

非常持ち出し品を用意しましょう

●大規模災害時、被災地に救援物資が届くまでには、おおむね3日かかるといわれています。非常持ち出し品は、この間に必要なものを厳選しておきましょう。
●非常持ち出し品は、一つにまとめ、すぐ取り出せる場所に保管しておきましょう。
●家族構成など必要に応じて準備しましょう。乳幼児やお年寄りなどで、特に必要なものがあればつけ加えておきましょう。
●非常持ち出し品は定期的に点検をしましょう。
●保存状態や使用期限などを定期的にチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

中身は必要最小限に!

□非常持ち出し袋　□運動靴　□ヘルメット　□防災ずきん

水・食糧

□食糧（インスタント・レトルト食品）　□飲料水（一人1日約3リットルが目安）

衣　類

□雨具　□下着　□上着　□軍手

洗面道具

□せっけん　□歯磨き用具　□ヒゲソリ　□ウェットティッシュ　□タオル

貴重品

□身分証明書　□現金　□保険証　□通帳　□印鑑

小物道具

□懐中電灯　□携帯ラジオ　□電池（予備含む）　□使い捨てカイロ　□ビニール袋（大小）
□缶きり　□ナイフ　□筆記用具　□ロープ　□ラップ

その他

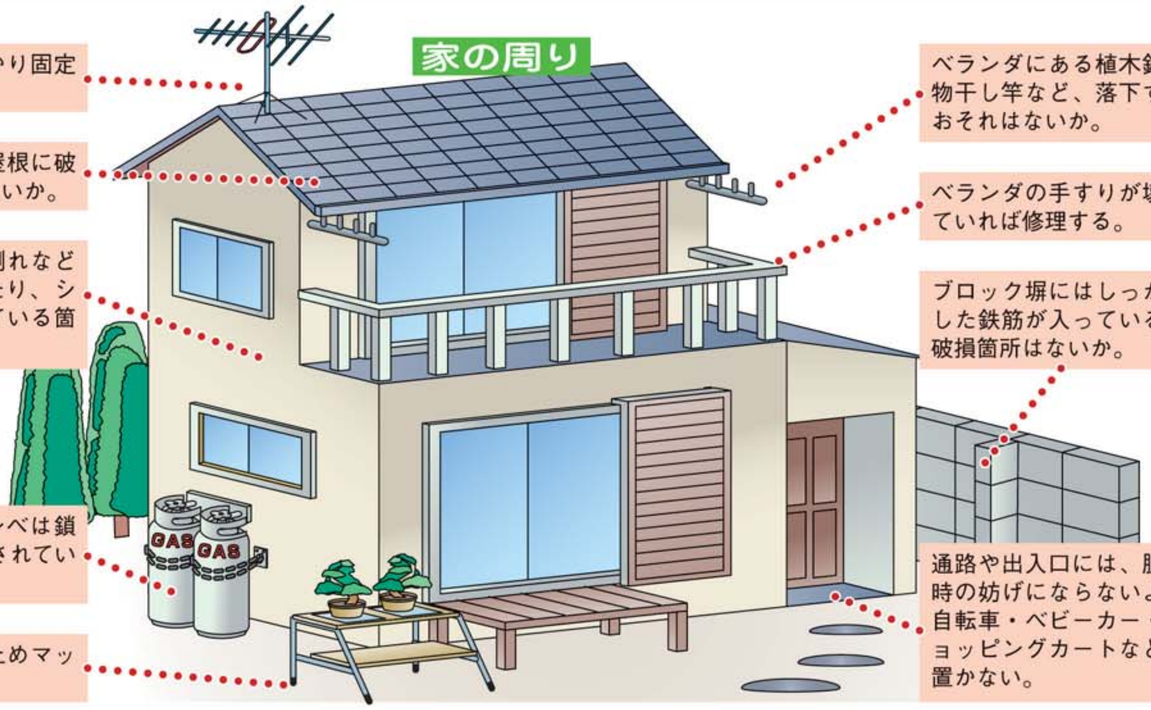
□メガネ　□入れ歯　□ベビー用品　□救急箱

家庭でもう一度安全点検をしましょう

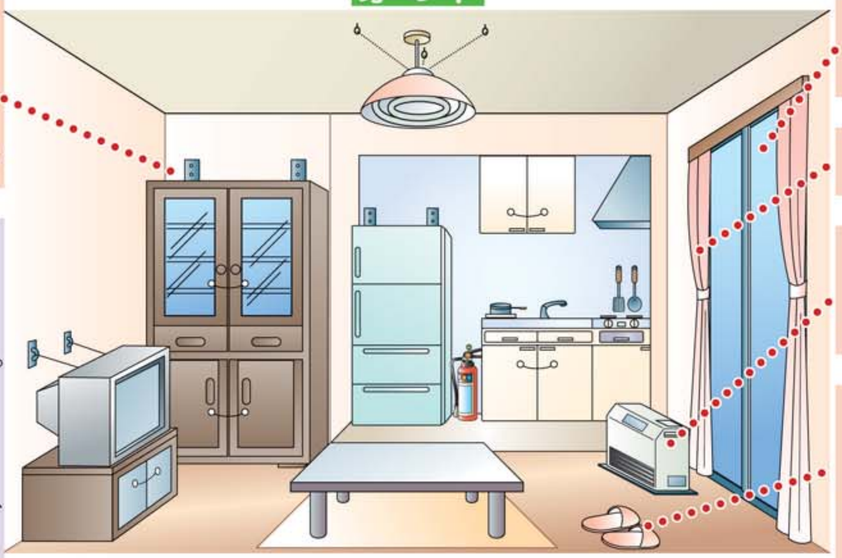
地震対策は行政だけでできるものではありません。個人の生命や財産を守るためには、皆さん一人ひとり、あるいは家族が協力して日頃から備えておく必要があります。

建物やその周囲にある物などの地震に対する安全性をチェックし、補強や修理などをおこなっておきましょう。

家の周り



家の中



以下のようなことも安全のために大切です。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
- 玄関や廊下には家具や荷物を置かない。（避難の時の妨げになる。）
- 子どもや高齢者の方のいる部屋や寝室には、倒れやすい大きな家具は置かない。

建築物の耐震診断・改修補助制度

埼玉県では、平成18年度に策定した埼玉県建築物耐震改修促進計画に基づき、多数の人が利用する一定規模以上の民間建築物の耐震診断及び耐震改修に対する補助制度を創設しました。

【問い合せ先】
埼玉県都市整備部　建築指導課
震災対策・福祉のまちづくり担当
☎ 048-830-5527（耐震相談ホットライン）

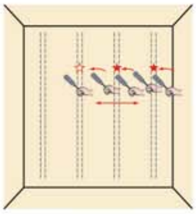
家具の耐震改修をしましょう

家の中の家具についても地震に対する安全性をチェックし、耐震改修や配置換などをおこなっておきましょう。

固定できる壁の探し方

壁の内側の桟を探すには、ドライバーの柄などで壁をたたいてみます。より正確に桟の位置を見つけるためには、下地探知用センサーやプッシュピンを活用します。

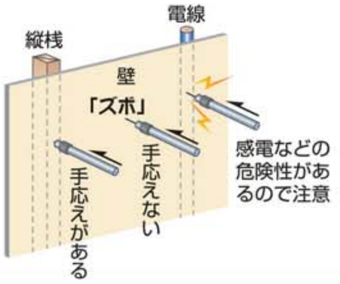
●ドライバーでたたいて探す方法



横方向にたたき、コンコンと硬い音がする場合、縦桟の可能性があります。硬い部分に印（★）を付けて、印2点間の距離を測定。等間隔に印があることが、チェックポイントです。

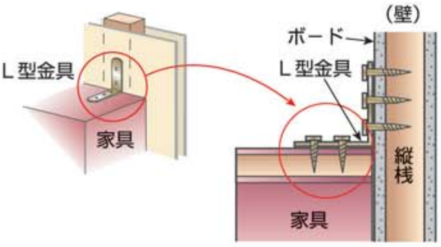
※壁によっては固定のできない壁もあります。

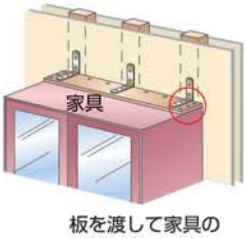
●プッシュピンによる確認の方法



壁の桟と家具の桟をL型金具で固定

家具の上部ならどこでもよいというわけではなく、両端部分の家具自体の桟が確実に入っている位置に金具を取り付けます。





板を渡して家具の両端と奥に固定

●家具の桟の幅が短くて木ネジが固定できない場合

家具の幅や置きたい場所に合わないときは、家具の高さに合わせて、横木を壁の桟に取り付け、L型金物で家具を固定します。

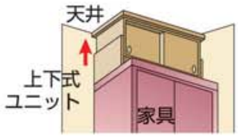
桟に固定できない場合の固定方法（壁の中に桟がなく、やむを得ない場合）

家具の上部が、鴨居や横木から離れていてやむを得ずベルトやチェーンなどを使って固定する場合は、家具の側面に30度以下の角度でピンと張ります。たるみがあると効果はありません。

家具の両側の側板部に設置

突っ張り棒タイプのものを利用するには、天井に家具を支えるだけの耐力がないと危険です。しっかりとした天井でも天井とのすき間が少なく奥行きのある家具でないと、大きな効果は期待できません。

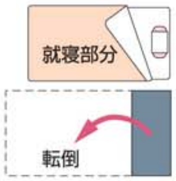
高さを調整しながら天井と家具を支える上置型すき間埋め収納ユニットを利用します。



家具の配置にも工夫を

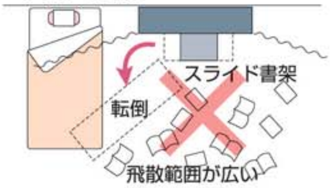
室内の家具の配置は、万一、大きな揺れで転倒した場合に、大けがをしたり、部屋に閉じ込められたりしないように、安全という面から家具の置き場所も工夫しましょう。

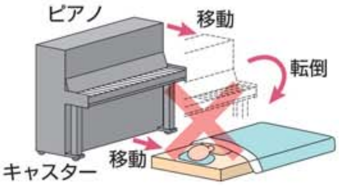
家具との関係で安全な就寝の位置は、家具の側方です。もしも家具の前方に就寝する場合は、家具の高さ以上に十分な距離をとります。スライド書架付きの本棚は安定が悪いため、就寝の位置からなるべく離した方がよいです。



就寝位置は家具の側方がよい

就寝位置はなるべく離れていないと危険

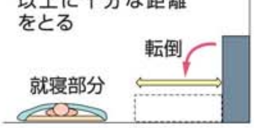




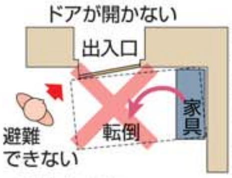
ピアノにはキャスターが付いているため、確実な移動防止が行われている場合以外は、就寝の部屋には置かない方がよいです。

台の上に乗せたテレビやパソコンなどは飛び出す可能性があるので、就寝位置、特に枕の位置には注意してください。

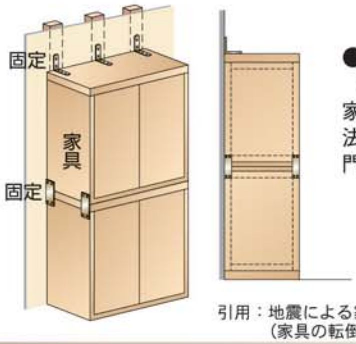
就寝位置が正面の場合は家具の高さ以上に十分な距離をとる



ドアが開かない



部屋の出入口付近に家具を置くと、家具の移動や転倒、収容物の散乱などによって、避難路が遮られることがあるので、なるべく家具を置かない方が安全です。



●積み重ね家具の固定方法

家具の内側で固定する方法もあるので、家具の専門家に相談するとよいです。

引用：地震による家具の転倒を防ぐには
（家具の転倒防止対策に関する検討委員会作成）

自主防災組織の役割と活動

大規模災害の時は、すぐに消防や警察などの援護が得られない可能性があります。そんな時頼りになるのが、住民自身が自発的につくる防災のための組織『自主防災組織』です。

自主防災組織の役割・意義

自主防災組織とは、地域住民が自主的な防災活動を行なう組織です。特に大規模な災害が起こった場合、電話が不通になったり、道路交通網・電気・ガス・水道設備などが破壊されたりして、消防などの防災関連機関の活動が制限される事態が予想されます。そのような事態に備え、住民が連携し、協力し合って地域の被害を最小限に抑えることが、自主防災組織の役割・意義なのです。「自分たちの町は自分たちで守る」という心構えで、自主防災組織に参加しましょう。

自主防災組織の活動

平常時

- 防災に関する学習会、講習会の開催
- 防災意識啓発・高揚のための広報紙などの発行
- 地域内危険箇所の点検
- 防災カルテや防災マップの作製
- 地域災害史や災害体験談の掘り起こし

災害時

- 負傷者の救出・救護活動、救護所への搬送を行う
- 出火防止のための活動および初期消化活動を行う
- 災害に関する正しい情報の収集と、住民に対する情報の伝達を行う
- 住民を避難所など安全な場所に誘導する
- 食料や水などの配分、炊き出しなどの給食、給水活動を行う

自主防災組織補助金制度

「自分たちの町は自分たちで守る」という考えのもと、自治会など自主的に設立している組織を単位とする自主防災組織が結成されています。町では、自主防災組織を対象に防災用資機（器）材の購入費の一部を補助し、自主防災組織の結成を促進しています。

災害時要援護者を守る

高齢者、傷病者、妊産婦、乳幼児、障害者、外国人の方など、災害時に大きなハンデを持つ人がたくさんいます。自分自身の力で避難できない人、自分が直面している状況を理解できない人など「災害時要援護者（以下『要援護者』という）」の被害が予想されます。地域が一体となって要援護者を災害の被害から守るための対策が必要です。

避難する場合はしっかり誘導をする

- 乳幼児や高齢者の方には、手をつなぐ、背負うなどによりしっかり援護します。
- 言葉が通じない外国人には、声をかけ、身振り手振りを交えて誘導します。
- 要援護者には地域で具体的な救援体制を定めておくことが重要であり、一人に対して複数の住民による援護が必要です。

要援護者の立場になって防災環境を点検する

- 避難経路は車椅子で通れるか、放置自転車などの障害物はないか。
- 聴覚、視覚障害者への警報や避難勧告の伝達手段はあるか。
- 外国人向けの掲示や広報手段があるか。

心のケアも忘れない

- 災害時の混乱や被害が大きいほど、誰もが殺伐とした気持ちになりがちです。要援護者にとってはいっそう大きな影響を与えます。そんな非常時にこそ要援護者への温かい思いやりや真心のこもった援護が必要です。
- 日頃から地域における要援護者の把握に努め、日常的にコミュニケーションをはかっておくことが重要です。

復旧活動にも参加してもらう

- 高齢者の方や子どもたちにも被災後の復旧活動に参加してもらいましょう。何もしないことがストレスや体調を崩す原因になります。要援護者が災害発生時に初期消火や応急手当などができるよう、要援護者参加型の防災訓練を実施することが有効です。

倒れている人がいたら～AEDによる蘇生法～

意識を失っても、すばやく的確な手当を行なえば、命の助かる確率が高くなります。消防署に119番通報して救急車を待つ間に行なう「心肺蘇生法」がきわめて重要です。心停止の傷病者の救命には、電気ショックによる蘇生法が大変有効な応急手当です。AED（自動体外式除細動器）は傷病者の心臓のリズム等を自動的に調べ、必要な手順を音声メッセージで指示してくれる機器です。AEDが近くにあったら有効に活用しましょう。

AED（自動体外式除細動器）の使い方

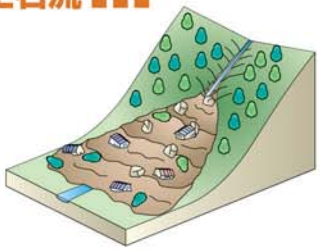
（誰でも使えるAED）

① 電源を入れる。
② パッドの貼る位置を確認し、装着する。
③ 音声メッセージ（指示）に従う。

土砂災害に対する心得

土砂災害とは

土石流



土砂災害は、山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象です。
その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

地すべり

地すべりは、斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって、ゆっくりと地層界に沿って移動する現象です。
一般的に移動土塊量が大きいため、深刻な被害を及ぼします。また、いったん動き出すと、完全に停止させることは非常に困難です。

がけ崩れ

がけ崩れは、地中にしみこんだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象です。
突然起きるため、人家の近くで発生すると逃げ遅れる人が多く、大きな人的被害をもたらします。

土砂災害に備えて

① 正確な情報収集と自主的避難を

ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

② 安全な避難路の確認を

避難所までの経路（避難路）は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

③ 前兆現象に注意

雨が降ったときや、土石流やがけ崩れなどの危険箇所では地面のひび割れなどの前兆に注意しましょう。

④ 早めの避難を心がけましょう

土砂災害は多くの場合被害の発生・拡大に時間的余裕がありません。早めの避難を心がけましょう。

●土砂災害警戒区域等の種類

土砂災害警戒区域

土石流や急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害警戒区域

土石流や急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

●大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合で、具体的には次の条件に該当します。

１時間雨量が30mm以上
３時間雨量が50mm以上
土壌雨量指数113

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合で、具体的には次の条件に該当します。

１時間雨量が70mm以上
土壌雨量指数162

※土壌雨量指数：土壌雨量指数は、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数です。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分１地形図を複製したものである。（承認番号　平20関複、第 308号）」

皆野町地震ハザードマップ
地盤の揺れやすさ

地盤の揺れやすさマップ

この地図は今回想定した「深谷断層による地震」と「全国どこでも起こりうる直下の地震（皆野町直下型地震）」のうち、揺れが大きい皆野町直下型地震の場合を想定したものです。

凡　例

弱　　揺れの強さ　　強

震度階級	震度5強	震度6弱	震度6強
人間	非常な恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	立っていることが困難になる。	立っていることができず、這わないと動くことができない。
屋内の状況	棚の上のものが落ちる。タンスなど、重い家具が倒れる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。あかなくなるドアが多い。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸がはずれて飛ぶことがある。
屋外の状況	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。

震度と被害想定

震度……震度とは、地震による揺れの程度を表し、同じ地震でも地域によって異なります。

震度0　人は揺れを感じない。

震度1　屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。

震度2　屋内にいる人の多くが揺れを感じる。眠っている人の一部が目をさます。電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。

震度3　屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。棚にある食器類が、音を立てることがある。

震度4　かなりの恐怖感があり、つり下げ物は大きく揺れ、棚などの食器類は音をたて、座りの悪い置物が、倒れることがある。電線が大きく揺れる。

震度5弱　多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。

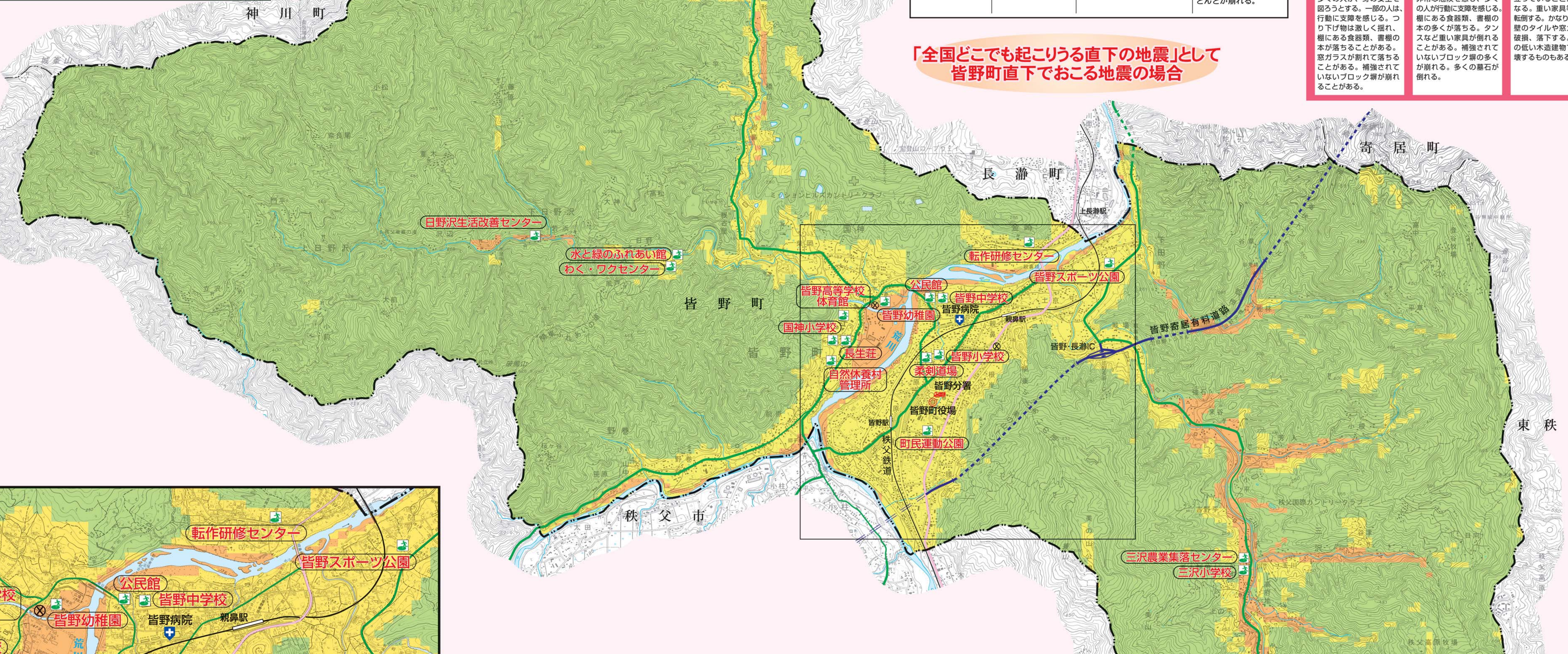
震度5強　非常な危険を感じ、多くの人が行動に支障を感じる。棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。タンスなど重い家具が倒れることがある。補強されていないブロック塀の多くが崩れる。多くの墓石が倒れる。

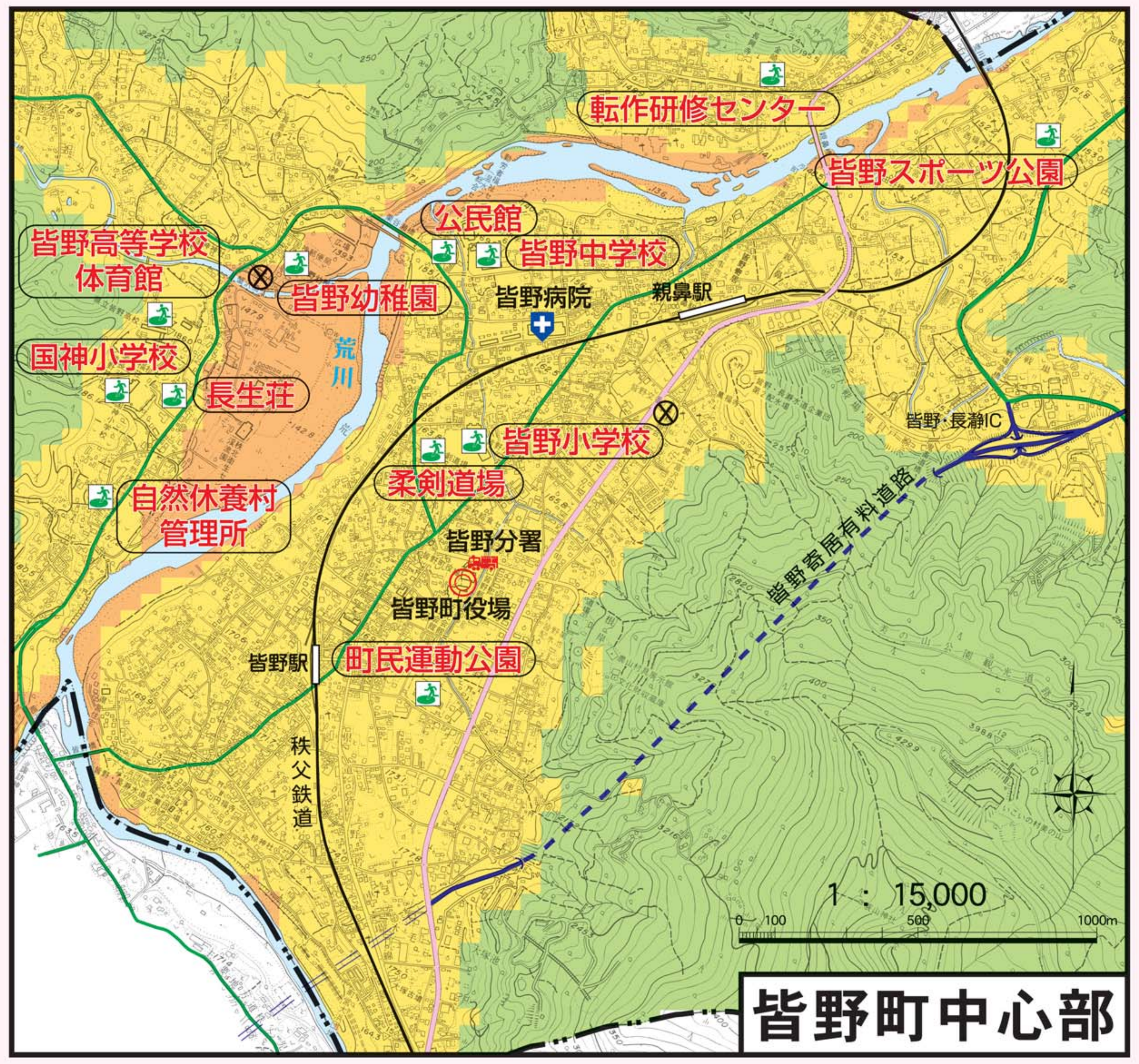
震度6弱　立っていることが困難になる。重い家具等が移動、転倒する。かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い木造建物では、倒壊するものもある。

震度6強　立っていることができず、はわないと動くことができない。多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物では、倒壊するものがある。電気・ガス・水道などのライフラインに被害が発生することがある。

震度7　自分の意志で行動できない。ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。耐震性の高い建物でも傾いたり破損するものがある。大きな地割れ、地すべり、山崩れ等が発生し、地形が変わることもある。

「全国どこでも起こりうる直下の地震」として皆野町直下でおこる地震の場合





皆野町中心部

深谷断層による地震の影響（地盤の揺れやすさ）

県では、平成19年度に行った地震被害想定調査で最新の調査研究などから地震発生の危険性が指摘されている５つの想定地震を調査しました。その中で皆野町に影響が最も大きいと想定されているのが、活断層で発生する深谷断層による地震です。

その予測結果によると地震の規模はマグニチュード7.5、県内での最大震度は7で中部から北部を中心に揺れが大きい傾向が予測されています。

皆野町の場合、地盤条件などから比較的揺れが小さくなり震度6弱と予測されています。

※地震発生時に地図に表示された状況が実際に発生することを示したものではありません。
地震の震源・規模等によって、「揺れ」の程度は異なります。

凡　例

表記	名　称
（記号）	避難場所
◎	町役場
⊗	交番・駐在所
（記号）	消防署分署
（記号）	救急指定病院
（線）	町界
（線）	鉄道
（線）	有料道路
（線）	国道
（線）	主要道路

平成二十一年作成

地図調製　東京都板橋区舟渡3-15-22　☎ 03 (3967) 1781(代)　(株)中央ジオマチックス

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分１地形図を複製したものである。（承認番号　平20関複、第 308号）」

皆野町地震ハザードマップ
建物の危険度

皆野町の位置

地域の危険度

	危険度数	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
	危険度 5	10%～
	危険度 4	7～10%
	危険度 3	5～ 7%
	危険度 2	3～ 5%
	危険度 1	0～ 3%

土砂災害危険箇所

	土石流危険渓流
	急傾斜崩地壊危険箇所
	地すべり危険箇所

緊急連絡先

機関	名称	所在地	電話番号
警察	秩父警察署	秩父市上宮地町29-2	24-0110
	国神駐在所	大字国神652-4	62-4017
	皆野交番	大字皆野1798-5	62-0033
消防	秩父消防本部	秩父市下宮地町10-25	21-0119
	秩父消防署皆野分署	大字皆野1421-1	62-0256
水道	皆野・長瀞上下水道組合	大字皆野283	62-0554
電気	東京電力（株）埼玉カスタマーセンター	―	0120-995-442（停電、その他の電気関するご用件）
救急指定医療病院	埼玉医療生活協同組合皆野病院	大字皆野2031-1	62-6300

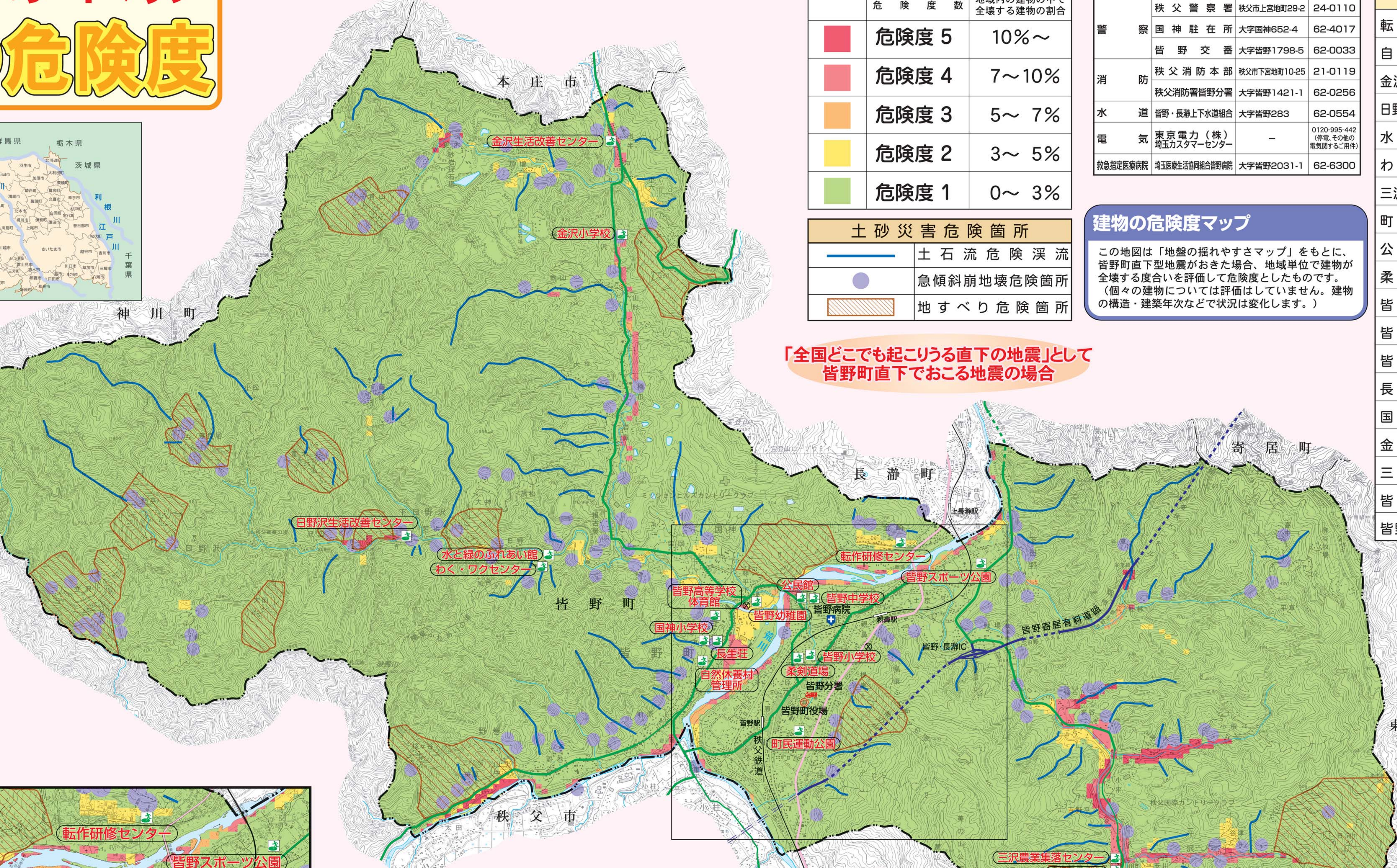
建物の危険度マップ

この地図は「地盤の揺れやすさマップ」をもとに、皆野町直下型地震がおきた場合、地域単位で建物が全壊する度合いを評価して危険度としたものです。（個々の建物については評価はしていません。建物の構造・建築年次などで状況は変化します。）

避難場所

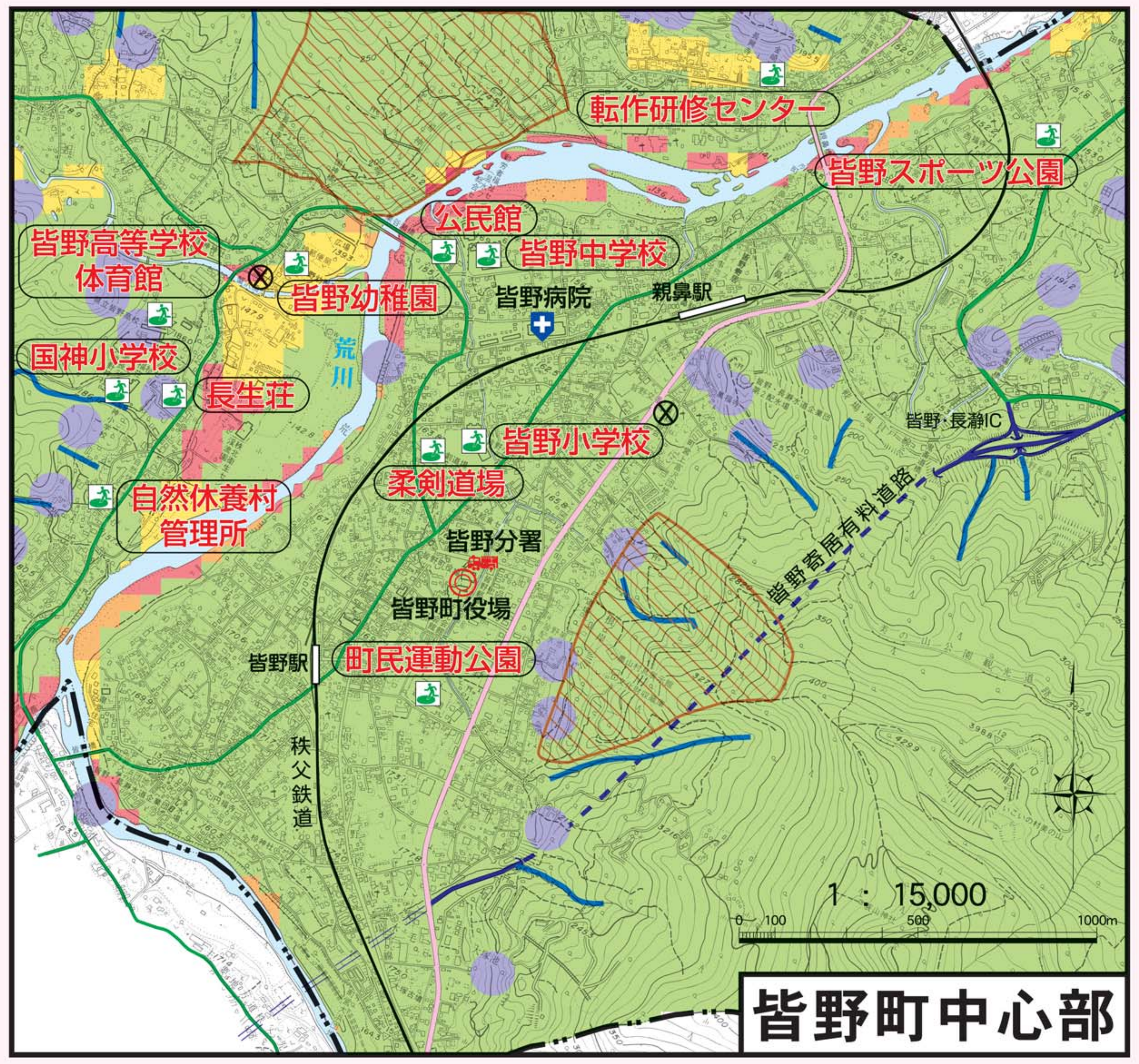
名称	所在地	電話番号
転作研修センター	金崎111-1	―
自然休養村管理所	大渕280	―
金沢生活改善センター	金沢259-1	―
日野沢生活改善センター	下日野沢3548-4	―
水と緑のふれあい館	下日野沢3993-3	62-5227
わく・ワクセンター	下日野沢3990	―
三沢農業集落センター	三沢1588-1	―
町民運動公園	皆野836-2	―
公民館	皆野2228-1	62-0454
柔剣道場	皆野2125	―
皆野幼稚園	国神639	62-1333
皆野小学校	皆野1346-1	62-0053
皆野中学校	皆野2244-2	62-0432
長生荘	大渕103-1	62-4625
国神小学校	大渕70-1	62-0579
金沢小学校	金沢2642	62-0753
三沢小学校	三沢1606	65-0123
皆野スポーツ公園	下田野1119-1	―
皆野高等学校体育館	大渕19-1	62-2076

「全国どこでも起こりうる直下の地震」として
皆野町直下でおこる地震の場合



凡例

表記	名称
	避難場所
	町役場
	交番・駐在所
	消防署分署
	救急指定病院
	町界
	鉄道
	有料道路
	国道
	主要道路



皆野町中心部

深谷断層による地震の影響（建物の危険度）

直下における地震と比較して、揺れの程度が小さくなることが予想されることから建物が全壊する可能性も小さくなると想定されます。

※地震発生時に地図に表示された状況が実際に発生することを示したものではありません。
地震の震源・規模等によって、危険が少ないと地図に表示された地域においても危険な状況になることも考えられます。

平成二十一年作成

地図調製　東京都板橋区舟渡3-15-22　☎ 03 (3967) 1781(代)（株）中央ジオマチックス

災害用伝言ダイヤル

これは、被災地域内やその他の地域の方々との「声の伝言板」です。

ご利用方法

＊「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
＊録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
＊提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

伝言の録音方法

1 7 1 にダイヤルする
▼ガイダンスが流れます
録音の場合 1
▼ガイダンスが流れます
(××××)×××-××××

伝言の再生方法

1 7 1 にダイヤルする
▼ガイダンスが流れます
再生の場合 2
▼ガイダンスが流れます
(××××)×××-××××

被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の方の
電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

携帯電話　災害用伝言板サービス

震度６弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・PHSを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。

それぞれの携帯電話・PHSの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択してください。

※他社携帯・PHSおよびパソコンなどからも、家族や友人の安否情報をご確認いただけます。

NTT ドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
au by KDDI	http://dengon.ezweb.ne.jp
ソフトバンクモバイル	http://dengon.softbank.ne.jp
ウィルコム	http://dengon.willcom-inc.com
イー・モバイル	http://dengon.emnet.ne.jp/

▼皆野町のホームページ

http://www.town.minamino.saitama.jp/

▼土砂災害情報のホームページ

埼玉県・河川砂防防災情報システム　http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/saitama/dosya/

▼気象情報のホームページ

気象庁・熊谷地方気象台　http://www.tokyo-jma.go.jp/home/kumagaya/

国土交通省・防災情報提供センター　http://www.bosaijoho.go.jp/

※上記以外にもテレビ（NHK、テレビ埼玉）やラジオ局を通じての情報を入手することができます。

わが家の防災メモ

避難場所		家族の集合場所	

	名　前	会社・学校の電話番号	所　在　地	メ　モ
家族の連絡先				

皆野町地震ハザードマップ
発行：皆野町役場　☎：0494-62-1230
平成21年2月